



知れば知るほど
おもしろい
浮世絵ストーリー

文化財鑑賞ガイドブック 浮世絵編 第1弾

目次

- 03 [浮世絵とは？](#)
- 05 [木版画の作り方](#)
- 06 [3つの目で世界が広がる](#)
- 08 [虫の目で細部を見よう](#)
- 09 [鳥の目で俯瞰してみよう](#)
- 10 [魚の目で時代を見よう](#)
- 11 [鑑賞の紐解き](#)



浮世絵とは？



浮世絵とは？

「浮世」の絵。「浮世」とは、憂き世（うきよ）や浮世（ふせい）が語源です。憂き世は仏教用語であり、「辛いこの世」を意味するもの。浮世（ふせい）は中国から伝来した言葉で、「儂い」を意味します。

「この世が辛くて、儂いものであるならば、いっそ、ウキウキ浮かれて暮らそうじゃないか！」・・・と、願望も込めてでしょうか？意味が転化されていきました。

挿絵からの始まり

江戸時代初期に浮世本の挿絵として、浮世絵が誕生するわけです。浮世本とは、井原西鶴の「好色一代男」のような大衆文学。

次第に、今人気の歌舞伎役者や看板娘、流行りのファッションや観光スポットを、ウキウキと描いた絵を「浮世絵」と呼ぶようになりました。

架空の人物や架空の景色ではない。現代でいえば、エンターテインメント情報、トレンド情報、観光名所の魅力などのビジュアルです。現代なら写真や映像が使われるところ、当時はそういう技術はなかったですから、巧みな手技で、芸術的に表現したんですね。

浮世絵の種類

浮世絵には「肉筆画（にくひつが）」と「木版画（もくはんが）」があります。

肉筆画とは、絵師が自分の手で描いた、この世に1枚しかない浮世絵のこと。木版画とは、絵師が描いた肉筆画を版画にして刷り上げた浮世絵のこと。

木版画の功績

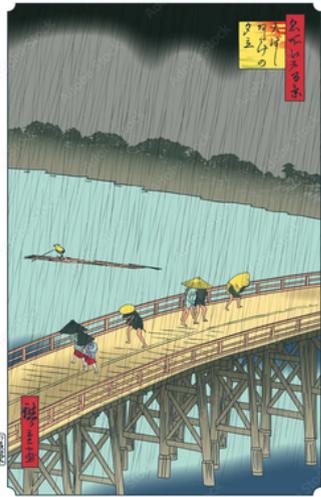
一点ものの肉筆画は高級すぎて、庶民には手が届きませんでした。そこで大量生産できる木版画の技術で、庶民でも浮世絵を、安価で手に入れることができるようになったのです。

うどん一杯程度の値段で、触れることができる高い芸術性。それゆえに、飛ぶように売れ、世界に類をみないほど、広く庶民に愛されるようになりました。



肉筆画の代表に、菱川師宣「見返り美人図」があります。浮世絵の原点ともいわれる絹本着色の傑作です。髪型や着物の柄は、誰もが憧れた最先端のファッション。東京国立博物館蔵

彗星のごとく浮世絵界に登場し、忽然と姿を消した東洲斎写楽の「三世瀬川菊之丞の傾城」。木版画によって、浮世絵が大流行し、まさしく全盛期の時代に描かれた浮世絵です。



そして、19世紀中ごろから20世紀初頭には、ジャポニズムの代表として海を越え、ゴッホやモネがその色彩や構図をまね、欧米で浮世絵ブームが起きました。

（左）フィンセント・ファン・ゴッホ「ジャポネズリー：雨の橋」（右）歌川広重の「大橋あたけの夕立」

木版画の作り方



木版画は「版元（はんもと）」「絵師（えし）」「彫師（ほりし）」「摺師（すりし）」の共同制作の体制がとられました。

- 1 「版元」は葛屋重三郎のように、世の中の需要を読んで指示を出す、いわばプロデューサーです。版元は、地本問屋（じほんどんや）といって、大衆向け娯楽本の出版販売もしていました。
- 2 そんな版元の企画に従って、構図を考えて下絵を描いたのが「絵師」たち。喜多川歌麿や葛飾北斎などです。
- 3 絵師の下絵を木版に彫るのが「彫師」。そして、彫った版木に絵具を付けて紙に摺るのが「摺師」です。
- 4 彫師と摺り師は、陰の立役者。名を遺している人は数少ないですが、彼らの超絶技巧があったからこそ、大衆の心を掴んだ。といっても過言ではありません。

3つの目で世界が広がる



浮世絵には、江戸時代の庶民の様子や心情、センス、メッセージなど、たくさんのストーリーが織り込まれ、非常に面白い作品が多いのですが、ただ漠然と眺めているだけでは、その面白さに気づくことはできません。

文化財鑑賞全般に言えることですが、私の経験上、3つの目で見ると、文化財の世界が広がります。

まず1つ目、それは虫の目。虫になったつもりで細部を見ると、気づきや疑問が出てきます。2つ目は鳥の目、全体を俯瞰する目です。そして3つ目は、魚の目で流れをみる。流れ、つまり時代の流れを感じることです。

そして、もっとも大切なことは、自由に感じて考える。あなたの中から湧き出てくる想いに、正解も不正解もありません。味わって下さい。では、さっそく、鑑賞してみましょう！

婦女人相十品

相觀 歌麿考画



虫の目で細部を見よう

細部のひとつひとつを見て
五感をつかって想像してみましよう。

女性が口にくわえているものは何？

髪型、かんざし
はどうなってる？



肌の感触
香り

着物の色
文様

鳥の目で俯瞰して見よう

全体の雰囲気やバランス、
人物を想像してみましよう。

どんな姿勢？
どんな動き？

明るい？暗い？

視線の先に
何が？

歳は幾つ
くらい？



忙しそう？
のんびり？

魚の目で時代を見よう

今と比較して、
相違点と共通点を想像してみましよう。

今に置き換えて
見ると？

どんな時代
だったのかな？



当時のファッション
センスは？

鑑賞の紐解き

興味が湧いてきたところで、紐解きをしていきましょう。
この絵は喜多川歌麿の『ポッピンを吹く女』と、いいます。

ポッピン

女性が口にくわえているのはポッピン。外国から伝わったガラス製の音の出るオモチャ。またの名をビードロといいます。今では長崎を代表する伝統工芸です。

そんなオモチャを吹いている女性だと思えば、あどけなさの残る娘さんに見えてきませんか？



市松文様

赤いギンガムチェックって、今でも可愛い！を刺激する柄ですよ。しかも桜が散りばめられているなんて！

ギンガムチェックはこの時代、「市松模様」と呼ばれていました。上下左右に途切れることなく続く、終わりのない文様ですから、市松文様は「永遠」「繁栄」の意味を含めた縁起いい文様です。

江戸時代に人気を博していた歌舞伎役者の佐野川市松が、紺と白のギンガムチェックの舞台衣装を身につけて登場したことから、その名がつけました。ポッピンも市松模様も当時、江戸のトレンドだったというわけです。

袖の辺りの描き方に注目してください。緩やかにカーブする袖の市松は、正方形ではなく、ひし形に描いて柔らかさを醸しだしています。

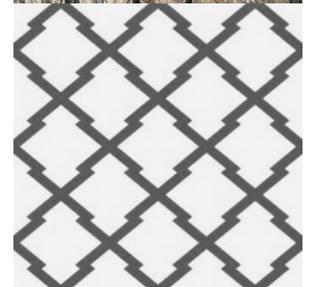


市松文様

松皮菱文様

ちなみに、腰回りの着物の文様は松皮菱といって、松の樹皮を菱形にデザイン化した日本独特の文様です。

常緑である松は、永遠の若さの象徴として、これまた縁起のいい文様なんです。



松皮菱

燈籠鬢（とうろうびん）



髪型をよーくご覧ください。こめかみ辺りから横にせり出す髪、これを鬢（びん）っていうんですが、透けていませんか？

こういう横にせり出した透け感のある髪型を「燈籠鬢（とうろうびん）」といいます。当時流行した髪型です。

髪の毛の一本一本が繊細に表現されている辺り、絵師の力量もさることながら、彫師と摺師の技巧の賜物です。なかには1mmのあいだに4本もの髪の毛を描いているものもあるんですよ。

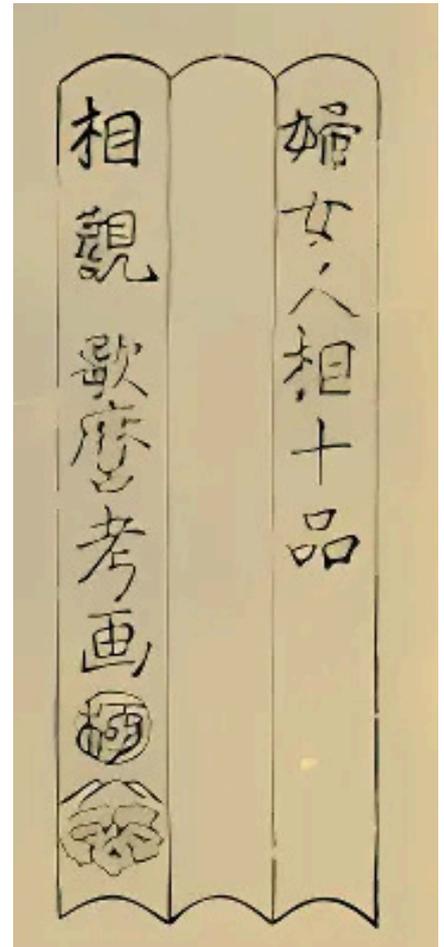
クレジット表記

浮世絵の中に文字が書かれている場合があります。タイトルや制作に関わる関係者のクレジット表記です。

この作品の右上には、「婦女人相十品（ふじょにんそうじっぽん）」というシリーズの一作で、絵師歌麿が10人の女性の顔を観て考察し、描いたと、書かれています。

その下には「極」と記された「極印」が押されています。これは、江戸幕府の検閲を受けたことを表しています。

その下の印は、山形に蔦（つた）の葉の紋。版元・蔦屋重三郎が手がけたことを示す「版元印」です。



知れば知るほど
おもしろい
浮世絵ストーリー

文化財鑑賞ガイドブック 浮世絵編 第1弾



一般社団法人

文化浴の森

© 2025 Sawano Tomoye